

# Marp で研究室の発表スライドを作る

～Beamer を卒業しよう～

著者 太郎


ほげほげ研究室 M2

YYYY/MM/DD


# 目次

1. はじめに
2. コードブロック
3. 数式
4. 図

# はじめに

- Marp とは **Markdown** で**スライド**を作成するためのソフトウェアである。
  - 基本的な Markdown のシンタックスがサポートされている。
- Markdown 上で  という区切り線を入れるだけで、次のページに移動することができる。<sup>1</sup>

---

1: Marp は CommonMark という Markdown の仕様に沿って開発されているため、CommonMark に含まれていない「脚注」の文法（）が提供されていない。そこで、<https://github.com/marp-team/marp/discussions/150#discussioncomment-1302384> を参照して擬似的に脚注を実現した。

# コードブロック

```
import torch
print(torch.cuda.is_available())
```

こんな感じでコードブロックを書くことができる。

```
from transformers import AutoModelForMaskedLM, AutoTokenizer
model = AutoModelForMaskedLM.from_pretrained("cl-tohoku/bert-base-japanese-whole-word-masking")
tokenizer = AutoTokenizer.from_pretrained("cl-tohoku/bert-base-japanese-whole-word-masking")

inputs = tokenizer.encode_plus("私はとても[MASK]です。", return_tensors='pt')
outputs = model(**inputs)
tokenizer.convert_ids_to_tokens(outputs.logits[0][1:-1].argmax(axis=-1))
```

横幅は自動調整される（ドキュメントの[Auto-scaling](#)を参照）。

$$I_{xx} = \int \int_R y^2 f(x, y) \cdot dy dx$$

$$f(x) = \int_{-\infty}^{\infty} \hat{f}(\xi) e^{2\pi i \xi x} d\xi$$

こんな感じで数式を書くことができる。もちろんインラインの  $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  も使える。

ついでに絵文字も使える 😊



1. まず [このいらすとやのリンク](#) から画像（`kenkyu_woman_seikou.png`）を右クリックでダウンロードしてください。
2. この Markdown のあるディレクトリの中に `images` という名前のディレクトリを作り、先ほどダウンロードした画像を配置してください。これで準備が整いました。

